

## (7) オームリ 飼育試験

### I 試験 目 的

バイカル湖産オームリを、本県特産魚とするため再生産技術の確立を図る。

### II 試験 内 容

1. 調 査 期 間 昭和54年4月～昭和55年3月
2. 調 査 場 所 十和田市相坂字白上 青森県水産試験場相坂養魚場
3. 担 当 者 養魚場長 三 田 治  
技能技師 松 田 毅
4. 調 査 項 目 育成調査

### III 試験 結 果

#### 1. 発眼卵到着時の状況

到 着 月 日 : 昭和53年3月12日 (10万粒導入)

輸送箱内温度:  $7.5^{\circ}\text{C}$ , 卵の状況: 良好 (活卵97%), 平均卵径:  $2.65\text{mm}$ , 平均卵重:  $11.8\text{mg}$

防疫対策: 収容前にヨード剤にて消毒し, 輸送箱は焼却処分した。

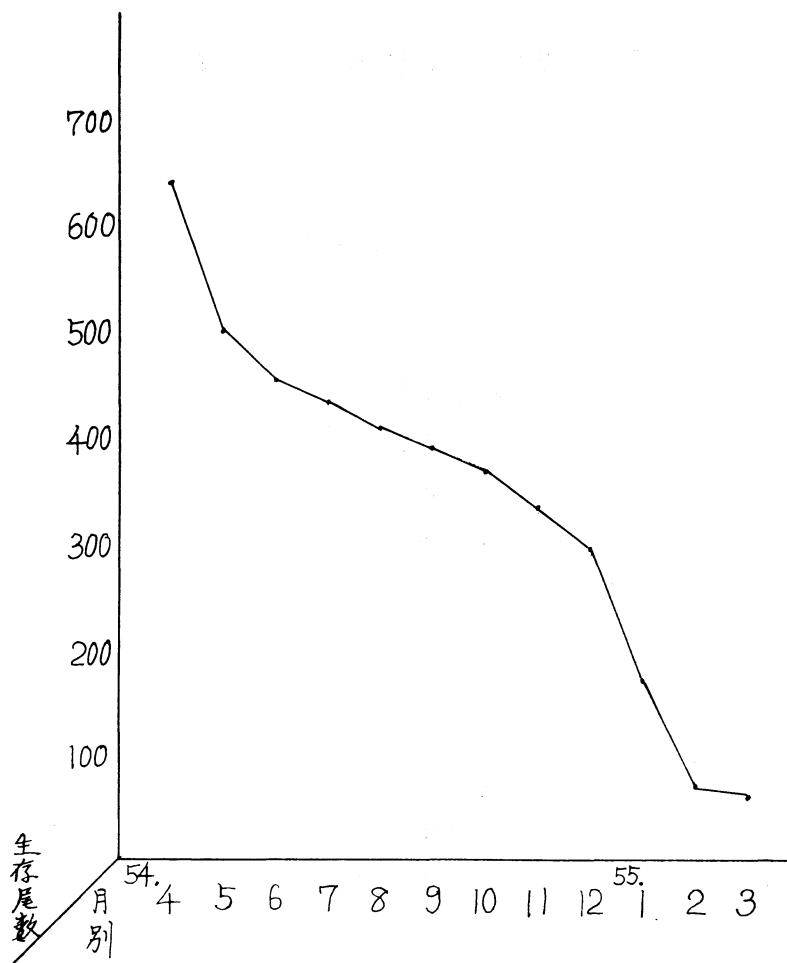
#### 2. 飼 育 経 過

昭和53年3月12日収容と同時にふ化開始し, ふ化後2～3日で摂餌行動を示したので, 3月16日から餌付を開始, 初期餌料にブラインシュリンプを使用した。3月25日ふ化終了 (ふ化率約90%) し, 4月25日からマス用配合餌料に切替えた。

6月30日までの3ヶ月で, 全長  $3\text{cm}$  になり, この間, 稚魚の生存歩留りは, 約50%, 6ヶ月で23%, 1年で全長  $10\text{cm}$ , 歩留 4.8% に低下した。

その後の生存数は第1図の通りである, この間餌料の切替え時, 魚病のため大量のへい死魚を出した。オームリは, プランクトン捕食魚のため, ブラインシュリンプから人工餌に切替え時に, 急に生存率が低下し, 魚病についても, 胸鰭, 尾鰭, 口端に水生菌の附着するものが多く, その都度フラン剤, マラカイトグリーン等の薬浴, サルファ剤の経口投与を行ったが, 水カビによるものと, セツソウ病 (外部所見) による死亡が全期を通して見られ, 生存率が非常に悪かった。今後生存率を高め生産を図るには, プランクトン飼育により  $2.5 \sim 3.0\text{cm}$  に達した稚魚を湖に放流したほうが有利と思われる。

53年産オームリのうち, 2,894尾を54年4月26日に西津軽郡岩崎村十二湖落口ノ池へ放流した。



第1図 オームリ生存尾数

種 苗 名	配 付 数 量
ニ ジ マ ス 種 卵	2,768,000 粒
" 稚 魚	285,050 尾
ヤ マ メ 種 卵	401,000 粒
" 稚 魚	85,000 尾
ク ロ ゴ イ 稚 魚	292,250 尾
イ ロ ゴ イ 種 卵	40,000 粒
" 稚 魚	27,650 尾